様式第３号（第４条関係）

会議録

１　附属機関等の会議の名称
令和６年度第１回丹波篠山市認知症対策会議

２　開催日時
令和６年７月１日（月）13 時 30 分から 15 時 00 分

３　開催場所
丹波篠山市役所　第２庁舎３階　３０１・３０２会議室

４　会議に出席した者の氏名（敬称略・順不同）
（１）委　　員　酒井 清隆（会長）、熊谷 進（副会長）、芦田 定、福井 辰彦、池岡 久雄、寺本 秀代、浜田 浩史、平野 雅俊、高仙坊 健、前川 洋一、山本 まいみ、杉原 一信、荻野 優子、吉田 久仁子

（２）執行機関　丹波篠山市役所長寿福祉課　福西　寿美子、松本　ゆかり、小猿　奈生子、内山　由佳

５　傍聴人の数
１人

６　議題及び会議の公開・非公開の別
公開

７　会議資料の名称
・令和６年度第１回認知症対策会議次第
・令和６年度丹波篠山市認知症対策会議　委員名簿
・丹波篠山市認知症対策事業推進計画（令和３年度～5 年度）の実績報告について【資料１】
・令和５年度「みんなで認知症を考える月間（認知症に関する一斉啓発事業）」の報告について【資料２】
・令和６年度～8 年度の推進計画について【資料３】
・認知症ガイドブック（R6.6 月改訂）
・「気づきシート」
・認知症関係志度の周知チラシ
・認知症サポーター養成講座チラシ

8　会議の概要

（1）開会（事務局）

丹波篠山市認知症対策会議設置要綱第３条第２項の規定に掲げる委員の２分の１以上、委員１６名のうち１４名の出席により成立。

（2）市長あいさつ

市長欠席のため保健福祉部長 福西よりあいさつ

（3）委嘱状交付

保健福祉部長　福西より交付

（4）自己紹介

（5）会長及び副会長の選出

立候補なし、事務局より推薦

会長　　酒井　清隆

副会長　熊谷　進

（6） 報告事項

ア　丹波篠山市認知症対策事業推進計画（令和３年度~5 年度）の実績報告について【資料１】

イ　令和５年度「みんなで認知症を考える月間（認知症に関する一斉啓発事業)」の報告について【資料２】

（事務局）　　資料に基づき説明

（委　員）　　質問等なし。

（7）協議事項

1）令和６年度～8 年度の推進計画について【資料３】

（事務局）　　資料に基づき説明

（会　長）　　令和６年度から令和８年度の推進計画について何か質問等はないか。

（委員 E）　　資料３について、地域住民への理解の推進について、民生委員として自治会の会に参加した際に、認知症の講座を開いて皆さんに参加してもらったらどうかと勧めるが、参加意欲が低い。認知症の正しい理解が少ないと思うが、どのようにもっていけばよいか、参加を勧めるためのよい方法があれば教えてほしい。

（委員 F）　　資料１の認知症サポーター養成講座の開催状況を見ると、令和元年度

から令和５年度まで民生委員を対象に認知症サポーター養成講座が開かれたことは一度もない。自治会長へ受講を勧めてもらっているが、民生委員が受講していないのはどうかとなるので、一度、民生委員で受講することをお勧めしたい。

（委員 E）　その点に関しては、城東支部では今年度に計画したいと思っている。

（会　長）　他にないか。

（委員 F）　２点ある。1 点は認知症のある方とその家族への支援ということで、細々であるが家族の集いを開催している。実際のところあまり参加者は増えてはいないが、常時来られる方が３～5 名いる。今はネット社会でもあり何か困ったことはネットで調べて支援を受けることも一つだと思う。それができる方もいるが、やはり家族同士が出会ったり、介護経験した人と出会うことによって共感を得られたり、相談したりする場はとても大事なことだと思う。そういう意味でも、家族支援として「介護者の集まりへの支援」というのが一つも入っていなかったように思うので、もう一度見直してほしい。

もう１点は、日常生活圏域にとらわれず認知症カフェが開催されるよう、立ち上げ・継続支援とあるが、今までは日常生活圏域に１つを目標に作ってきたが、認知症カフェを立ち上げたいと思っている方がいればどんどんやっていただくと理解してよいか。

（事務局）　はい。

（委員 F）　それは嬉しいことなので、どんどん立ち上げてほしい。同じ認知症カフェでも、雰囲気やコンセプトがそれぞれに違うこともあるので、自分が合うところに参加できるようになればいいと思う。ただ、一番ネックになるのは、そこに来ることが出来ない人だと思う。私は今、認知症カフェを立ち上げているが、みんな家族に送って来てもらっている。送迎をしてもらえる方はいいが、そうでない方が、「行きたいけど行けない」と仰っている。私達スタッフが送迎することは危険なので出来ない。立ち上げは嬉しいことだが、そこに参加する手段・方法に何か少し援助をいただければ嬉しい。

（会　長）　認知症カフェ等に参加出来ない方への移動手段、また介護者への支援の在り方ということでよろしいか。

（委員 F）　はい。

（会　長）　事務局の方よろしいか。

（事務局）　介護者の集まりへの支援のことに関しては、資料３の「4 認知症のある方とその家族への支援」に取り入れたい。認知症カフェに来ることができない方など、認知症のある方が外出する機会への支援としては、現在行っている高齢者タクシー料金助成制度だけでは難しいと思っている。交通の関係に関しては、関係部署とも連携を取りながらより充実し

た体制ができるように検討していけたらと思う。

認知症カフェや地域でのサロンについては、いつも参加者の送迎のことが課題になる。認知症カフェについては、日常生活圏域ごとの立ち上げとなると、概ね中学校圏域なので、自宅からは遠いなどの参加しづらさがある。そこで、日常生活圏域の考えを外し、できるだけ参加しやすい場所にあるとよいと考えた。

送迎に関しては、移動手段の方法だけではなく、認知症のある方等は、誰かと一緒に行動することも必要になってくると思う。そんなときに社会福祉協議会に市が委託をしている「見守り支援サポーター」や、認知症サポーター養成講座を卒業された方々で何かやってみたいという方々が、もう一歩足を踏み出してもらい、外出時の付き添いや、一緒にタクシーに乗ってもらうなどというようなことができればよいと思っているので、そういった取り組みにも繋いていきたいと考えている。

（会　長）　他に何か意見等はないか。

（委員Ｌ）　実際私が今、母の通院で直面していることだが、介護タクシーに使えるタクシー料金助成事業か社会福祉協議会の外出支援サービスのどちらかでしかサービスを受けることができない。母は市外の病院に通院しており、今までは自家用車で行けていたが、去年骨折をして車椅子ごと乗れる車でないと行けなくなってしまい、それと同時に市内の病院にも通院しないといけなくなった。どちらかのサービスしか受けられないので、結局、市外の病院への受診は今ストップしている状態。移動手段がないのがすごく問題だとずっと思っている。

早期発見についても、自身が認知症だと気付き、「外へ出るのは大変かもしれない、車の運転も危ないかもしれない」と思うようになると、家に籠ることが増えてしまい、認知症も進行していくと思う。気軽に外出ができるようなサービスというのは、介護タクシーが挙げられるが、サービスが充実してこその早期発見の意味がある。事業者がもっと数が増えるなど、みんながもっと気軽に利用できるような補助金やサービスが整ってほしいと思っている。

あと１点、認知症カフェで、自治会に１つとは言わないが、みんなが歩いて気軽に来られるくらいの数が必要だなと思って、私も気軽に近所の人に来てもらいたいと思って認知症カフェをスタートしようと考えている。気軽に「うちに来て」と思っている方はたくさんいると思うので、もっと情報が広がっていって「認知症カフェの立ち上げの申請は簡単にできるよ」のような情報が届けばうれしい。

（会　長）　移動手段について、補助金や新たな事業者が立ち上がることで、事業が進みやすくできないかという意見があった。また、認知症カフェ等まだまだ少ない状況にあるということで、これを立ち上げることに関する

情報提供等をしたらどうかということでよかったか。

（委員Ｌ）　移動手段に関しては、市の補助はあるのは有難いが、２つのサービスのうちどちらかしか使えないというのが不便。お金がかかることなので。

（事務局）　外出支援サービスは市が社会福祉協議会に委託している事業で、常時車椅子が必要な方が主に通院の時に使えるもの。また、タクシー料金助成事業は気軽に外出してもらえるために、一般タクシーや福祉タクシーの料金を助成するというもの。今のところ２つの事業を一緒に使うということはできない。どちらのサービスも受けられるとすると、本人の利用負担の少ない外出支援サービスに利用が偏る可能性があり、民間のタクシー会社の運行に影響を及ぼしてしまう。現在、市内の福祉タクシー事業所は３事業所に増えてきており、今後も高齢者・福祉分野にも民間の参入を望んでいるため、今のところ併用は見合わせているので、ご理解いただきたい。タクシー料金助成事業は、令和６年度より乗車地、降車地のどちらかが丹波篠山市内であれば、市に登録されているタクシー事業所を利用することで市外への移動も助成できるようになった。今後もこのような制度、移動手段というのはサービスを作った時にも必要になってくるので、時代に合わせながら考えていきたい。

タクシーは助成事業を活用して気軽に利用してもらいたいが、利用してほしい方が使えていないというのも現状。タクシーを呼ぶことは一般的だと思われていない高齢者もおられ、タクシーが来たら「かさが高い」という意見を聞くこともある。利用して「良かった」と思われた方は何回も使っており、助成券が足りないと言う方もいる。

タクシー等の移動手段だけでなく、認知症のある方等と一緒に付き添って外出できる方法についても考えていかないといけない。外出の方法については今後も検討しながら、できることから進めていくので、ご了解いただきたい。

認知症カフェについてはどんどん立ち上げていただきたい。委員Ｌさんが今も自宅でお母様を介護されているということなので、自宅で認知症カフェを開くことで、お母様も参加ができるので、ぜひ立ち上げていただけたらと思っている。立ち上げに関する情報は積極的に発信していきたい。

（委員Ｌ）　もう１点。コミバスの充実はできるか。運転できなくなったらまずコミバスを利用する方があって、なくなると困る。

（事務局）　コミバスについては創造都市課の方が担当している。令和６年度に公共交通会議のほうで検討を重ねているところで、秋からは試行的にデマンド交通を取り入れようとしている。実証実験をしながらいろんなところで広めていくと考えているので、ご不便をおかけしているが、一旦見

直すということになっている。

（会　長）　他に意見のある方はいないか。

（委員 F）　気づきシートは早期に発見するのに、何となく自分が不安な人もあれば、家族がやっぱりちょっと気になるなという方まで両方使えるようにはなっていると思う。これを使った人が、「早い段階で相談することでどのような良いことがあるか」というのがイメージできないと、相談することも躊躇してしまうのではないかと思う。周知していくためには、「早くに気付いて相談したら、こんな良いことがあった」という事例があると良いと思う。早くに気付いたおかげで治療の効果があったことや、家族が介護の仕方が分かって助かった・楽になった、などの具体的な事例をあげながらこのシートを活用していくことで、もっと活かされるものだと思うので、シートを受け取った方が、どう使うか分からず、「早く分かっても認知症と言われたらおしまいだ」と思われないように考えていかないといけない。認知症サポーター養成講座を開くときには、こういうことも伝えていきたい。

（会　長）　気づきシートは、次につながるような何か工夫が必要ではないかということだが事務局はそれでよろしいか。

（事務局）　気づきシートについては、ただ渡したら終わりっていうようなものではない。ご意見をいただいたように、気づきシートをきっかけに必要なサポートが受けられるようになった、という良い事例を伝える必要もあるので、どのように伝えていくかをキャラバン・メイト連絡会でも考えていきたい。

また、そういった主旨を伝えるためにも、シートをどこにでも置いておいたら良いものでもないので、まずは関係機関への配布からできたらと考えている。今年度は薬局の相談窓口の一角にパンフレット等を置かせてもらう予定なので、そこでも活用していきたい。

（会　長）　他に意見はないか。

（委員 K）　認知症の方は自分ではどうとも思っていないことが多い。気づきシートは第三者が読むような感じで出来ているように思う。子どもや家族がチェックして「認知症かもしれない」と気付くことはあるかもしれないが、本人が見ても分からないのではないか。もう少し扱い方も考えてもらいたい。気づきシートの自己チェックに関わらず、認知症の方は分からなくなることが多い。自分の妻のことだが、自分の歳も分からないし、毎日している日記の書き方も分からなくなっている。なので、周囲の人からできるような書類を作ってもらわないといけないと思う。介護する人が見てチェックして解釈しないといけない。

（会　長）　シートの活用などは、先ほどの話も含めて、検討していただきたい。

（委員 A）　気づきシートは、確かに認知症の進行において中高度の方にふさわし

くないような感じがするが、病院を受診される方はほとんど中等度以上の方なので、受診する方もいるのではないかと思う。一方で、早期の段階の方や無症状の方はもの忘れについて非常に気にしているので、気づきシートのような自己チェックがきっかけで受診する方もいる。ただし、MCI と診断されても 1～2 年後には約 15%が早期認知症に進行している。認知症は進行性の病気である。早期に気付いた方へのフォローは難しい。

アルツハイマー病治療薬も、MCI の段階で処方したとしても早期認知症そのものを防ぐことはできない。社会への参加などで孤独、孤立を防ぐことは進行予防にはなるが、認知症と診断された方にとっては大変だと思う。

（委員 K）　認知症にならないということを考えた方が良いのではないか。認知症が進行した場合、自分で治すという意思もなくなってしまう。したがって周囲が見ていかないといけない。認知症はアルツハイマーだけではなく、脳の病気や糖尿病などいろんな病気も関係している。そういった病気を早くに治すことへの啓発が必要だと思う。

（委員 A）　認知症の予防には糖尿病、高血圧、脂質異常症などの予防が大切だと言われているので、啓発は必要だと思う。

（会　長）　気づきのシートを使った方へのフォローについても検討いただきたい。

予定時刻となったので、そろそろ会議を閉じたい。

(8) 情報提供

（事務局）　資料に基づき説明

次回：令和 7 年 2 月頃開催予定

(9) 閉会

副会長あいさつ